

# 刊行にあたって

東京都江戸東京博物館では、平成5年の開館以来、江戸東京の歴史と文化に関する調査研究を積み重ねてきました。都市歴史研究室は、多くの研究プロジェクトを組織し、調査報告書・紀要（研究報告書）・史料叢書を刊行するとともに、教育普及事業「えどはくカルチャー」を開催してその成果をひろく公開してきました。なかでも専門領域の異なる都市歴史研究のスタッフが、外部の研究者を招いて、ひとつのテーマを共同で討論するシンポジウムは、調査研究活動の重要な柱として定着しております。

今回刊行する『東京都江戸東京博物館調査報告書第32集 隅田川流域を考える』は、平成28年3月5日に江戸東京博物館で開催された同名のシンポジウムの成果報告書です。このシンポジウムは、江戸から東京へと時代は移り変わっても、この地に住む人々からこよなく愛され続けてきた隅田川の歴史を様々な角度から取り上げたものです。あらためて指摘するまでもありませんが、隅田川を抜きにして江戸東京の歴史と文化を語ることはできません。隅田川が東京の母なる川と呼ばれる理由もその点にあります。隅田川はその魅力によって多くの研究者を惹きつけ、今後も多様なテーマで研究が蓄積されていくことになるでしょう。そのなかにあって本書が大いに参照されることを願ってやみません。現代人の生活と全く無縁の遠い過去のようにみえる隅田川の歴史が、私たちの住んでいる東京の将来を構想するうえで有意義であることを改めて感じとっていただく機会となれば、これにまさる喜びはありません。

最後に、本報告書の編集・刊行にあたってご協力を賜りました全ての方々に深く感謝申し上げます。同時に今後とも当館の活動に、ご支援を賜りますようお願いする次第です。

平成29年3月

東京都江戸東京博物館

都市歴史研究室